令和６年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立西新井中学校
校長　石井　秀生

１　学校教育目標

１よく考え知性を磨く　【知性】
２学びあい品性を高める【品性】
３すすんで体力をつける【体力】

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	生きる力を身につけ、自立し社会に貢献できる人材を育む学校 ・確かな学力の定着と体力・健康な体を育む学校 ・生徒が安心して楽しく学び、豊かな人間性を育む学校 ・保護者や地域と連携、協力した教育活動を推進し、保護者、地域の信頼に応える学校
○児童・生徒像	夢や目標に向かい、自分で考え判断し、表現、行動できる生徒 ・心豊かでたくましく、社会性を身に付けた生徒 ・意欲的に学習に取り組み、基礎学力を身に付けた生徒 ・自らのよさを発見し、主体的に行動できる生徒(自尊感情や自己肯定感を育む)
○教師像	人権感覚を身に付け、生徒、保護者、地域から信頼される教職員 ・生徒を第一に考え人権感覚、教育的愛情をもち、生徒や保護者に信頼される教職員 ・学習指導要領に則り、意欲的に授業改善に取り組み、わかる授業を実践できる教員 ・自己研鑽に努め、研修や課題解決に積極的に取り組む教職員

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

＜学校の現状＞
本校は生徒数が 581 名で 17 学級からなる大規模な学校であり、教育活動全体においても活気のある学校になっている。また、ここ数年の学校正常化の取組が実を結び、年々、落ち着いた雰囲気の学校になっている。生徒たちはにこやかな表情で元気よく挨拶をして、授業や学校行事・生徒会活動・部活動等にも意欲的に取り組んでいる。そして、様々な活動場面での生徒の活躍がより目立つようになり、本校が目標とする「一人一人の生徒が輝き、笑顔あふれる学校」に、しだいに近付いてきている。一方で不登校生徒や特別に支援が必要な生徒の割合は増加しており、個々の課題に応じた対応が必要とされている。対人関係や SNS のトラブル、他校間トラブルも出てきて、早期解決・未然防止に努めると共に、生徒に寄り添い人権を尊重する対応が求められている。
＜前年度の成果と反省＞
【前年度の成果】
(1)今年度も、生徒の生きる力の育成や不登校の未然防止、いじめ防止に向け、魅力ある学校づくりとして「一人一人の生徒が輝き、笑顔あふれる学校「地域に愛される学校」の実現を目指して、チーム西新井の体制で様々なことに取り組んだ。運動会、文化祭、修学旅行、魚沼自然教室の行事はコロナ感染予防対策をとりながら実施することができた。生徒アンケートの結果、学校行事、宿泊行事、部活動などに役割を果たして楽しむことができた生徒の割合は平均して 87.7%だったこと。また、地域や保護者から応援されていると感じている生徒、楽しく生き生きと学校生活を送ることができている生徒の割合が９割近くだったことからも、生徒一人ひとりが活躍できる場や機会を多く設定できたことで、自己肯定感を高めることができた。

(2)昨年度の区学力調査の全体の平均通過率は58.7%で目標値の65%を超えることができなかった。
(3)生徒の基礎学力の定着を図るため、朝学習で取り組んだ内容について基礎学力ていちゃくテスト(朝学習まとめテスト)を実施し、その結果から未定着箇所の補充を放課後に行った。
(4)教員の授業改善を進めるために、指導案を作成させて、管理職による授業観察を行い、授業後には必ず指導を行うことで、足立スタンダードや今次学習指導要領に則った授業を実践できるようになってきている。
(5) 全学年の生徒に家庭学習ノートに取り組ませ、毎日の家庭学習ノートの提出及び内容の充実を図ることで、家庭学習の習慣化を目指してきたが、日常的に家庭学習に取り組む生徒の割合は 72.8%にとどまった。引き続き家庭学習ノートの取組を継続すると共に、ＡＩドリルの活用や学習プリントの配布など家庭学習に取組やすくなるよう工夫、支援していき、家庭学習の習慣化を図っていく。
(6) 生徒会活動の自発的・自治的活動が、より一層活発になってきている。今年度は、西中をより良い学校にするために生徒総会で議決された「授業態度をより良くする活動」に取り組んでいる。生徒会役員と学習委員などを中心にチャイム着席や学習意欲を高める活動に取り組んでいる。
(7)部活動でも活躍した生徒が多数いた。吹奏楽部がマーチングコンテスト全国大会で銀賞を受賞した。水泳部は全国大会リレーに出場。ソフトテニス部、バスケットボール部、卓球部、陸上部、野球部は都大会出場を果たした。
【今年度の課題】
(1)区学力調査の全体の平均正答率と平均通過率は昨年度目標の65%を下回ってしまった。特に２，３年の数学の正答率は41.3%，37.3%と低く、英語も50%台と低くなっている。２，３年の数学と英語は通過率も55～56%であった。数学と英語の基礎学力の定着という点では不十分な点が多いことから、授業改善、放課後補充により定着を図っていく。
(2)学力向上のために、生徒が分かる授業を実践するとともに、学ぶ楽しさを感じさせる授業改善が必要である。今年度も教科指導専門員と連携し、日常の授業観察や研究授業、成果発表授業を通してICT機器の効果的な活用や振り返りの工夫などで授業改善を推進していく。
(3)１年生は年度当初に家庭学習のやり方指導を実施することで、家庭学習の習慣化をめざした。まだ特定の生徒が提出できない傾向も見られ、家庭学習の習慣を定着させるために、やり方や内容など放課後の時間を活用し個々に応じた指導を行い、家庭学習の定着を図っていく。学級、学年間による差もあり、引き続き、全校で家庭学習の定着の取組を進めていく。
(4)不登校対応に関してはランチルーム登校やチャレンジ学級等の関係機関と連携して改善を図っているが、昨年度も不登校生徒の割合は微減して11.6%だったが、目標を下回れなかった。今年度も教育相談部会の活動やＳＣ・ＳＳＷ・関係諸機関との連携を更に強め、粘り強く対応していく。不登校の割合を下げられるよう、ランチルーム登校を現在の自習型に加え、カタリバと連携した学習支援型を新設し、毎週木曜日に実施し、５名の生徒が活用している。環境を整備し、より効果的な運営を進めていく。家庭連絡や家庭訪問、面談などを状況に応じて実施し、生徒、保護者とのつながりをもち、関係機関の協力も得て、進路の選択、決定ができる体制を継続していく。
(5)自己肯定感に関するアンケートの肯定的回答は９割近く、学年が上がるごとに意識は高まっているので、今年度も各種行事や日常生活の場で生徒が活躍できる場面を多く設定できるよう工夫していき、魅力ある学校づくりを実践する中で、生徒の自己肯定感、自尊感情を育んでいけるようにする。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン　基礎的・基本的な学力の定着	○	○	○	○	○
2	小中連携の推進と授業改善	○	○	○	○	○
3	自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応	○	○	○	○	○

５　令和６年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン　基礎的・基本的な学力の定着

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
年度末の到達度確認テストの目標正答率と令和６度の区調査目標通過率を達成する。	・令和６年度の区調査の目標通過率→６５％以上 ・年度末の到達度確認テストの目標正答率→６５％以上	令和６年度の区調査通過率 ５８．１％ 到達度確認テスト正答率 ５０．９％	通過率、正答率ともに目標を超えることができなかった。 次年度は目標を達成できるような方策を実施していく。	●

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善の推進	全校全教科	年間を通して	【指導体制】管理職、教科指導専門員、主幹教諭 【取組内容、目的】全教員の授業力を向上させるため、管理職と教科指導専門員の担当教科で授業観察と事後指導を行うとともに、若手教員の授業観察と事後指導を行う。生徒の授業評価アンケートを 12 月に実施し、教員の授業改善を推進させる。	分かる授業を実践し、生徒に学ぶ楽しさを感じさせることができたか。 足立スタンダードに基づいた授業を実践できたか。	12 月実施授業評価「授業内容は理解できたか」の肯定的評価を 90％以上にする。全教員が「学習指導要領や足立スタンダードに基づいた授業を実践した」の肯定的回答を100％にする。	生徒による授業アンケートの肯定的回答は 「わかりやすい」 ８４．３％ 「めあての掲示」 ７５．０％ 「やるべきことが明確で意欲的に取り組める」 ８４．２％	生徒によるアンケート結果では目標を達成することができなかった。次年度はすべての項目で肯定的回答を９０％以上にする。	△
2 継続	ICT 機器 AIﾄﾞﾘﾙの 有効活用	全校５教科	年間を通して	朝学習と補充学習で活用していく。 授業内での活用法についても、各教科で試行、検討する。	各教科で ICT 機器、AI ドリルを効果的に活用できたか。	活用用状況調査で「よく活用した」80％以上。	生徒による授業アンケートの肯定的回答は ２８．９％	目標値を大きく下回る結果であった。 教員には結果を示し推進リーダーを中心に活用を図らせる。	●

3 継続	放課後 補充教室	全校５科	年間を通して	【指導体制】学年教員 【取組の目的】教科の授業の基本的内容の問題演習に取り組み、基礎学力の定着を図る。 【使用教材】プリントとAIドリル。英単語、計算、漢字等。生徒、教員で採点。	金曜に基礎学力定着テストを実施し70～80%以上できたか。コンテストで生徒の学習意欲を高められたか。	毎週の基礎学力定着テストで８割以上の生徒が正答率70～80％以上を得点できるようにする。	基礎学力定着テストの実施ができなかった。放課後補習は区調査の結果を踏まえて数学を中心に実施させた。	計画的に実施することができなかったので、次年度は年間予定を踏まえて、年間実施計画を作成させる。	●
4 継続	家庭学習の定着	･全学年	年間を通して	指導体制】担任、副担任で点検、内容の確認、返却。 【取組内容、ねらい、目的】家庭学習ノートを毎日提出し家庭学習習慣化を図る。未提出の生徒は残して学習、提出させる。１年生は年度当初１週間、放課後に家庭学習のやり方を「家庭学習のしおり」を活用しながら、指導する。	家庭学習点検表で提出状況を把握。家庭学習の内容に変化があったか。家庭学習ノートを効果的に活用できたか。家庭学習の習慣が身についたか。	家庭学習ノート提出率 80%以上を達成目標とする。 12 月の生徒意識調査で家庭学習ノートを効果的に活用できたという設問の肯定的評価を 80%以上にする。	提出率の平均 １年生 ８０．３％ ２年生 ５５．５％ ３年生 ７８．６％ 全体 ７０．９％ 家庭学習の取組 ７８．５％	提出率は目標を達成することができなかった。特に２年生の取組状況がよくない。アンケートの肯定的回答は８０％近くなので、提出率の向上につなげられるように考えていきたい。	△
5 継続	到達度確認ﾃｽﾄの実施	･１，２年 ･国語・数学・英語	２月にて実施	【取組内容、ねらい、目的】3 教科の到達度テストを実施し学力がどの程度定着したか検証。正誤率等を分析して、授業や補充教室等の指導方法に活かす。	正答率で目標値を超えることができたか。	4 月の区学力調査の正答率をそれぞれの学年で＋5%以上にする。 正答率 60%	到達度確認テスト 正答率 １年 ５２．６％ ２年 ４９．２％	目標を超えることができなかった。次年度に向けて正答率が低い単元について、定着を図る。	●

重点的な取組事項－２	小中連携の推進と授業改善

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・今次学習指導要領や足立スタンダードを基にした授業の実践 ・３校共課題の書く力、表現力を育む取組や授業の実践 ・小学校２校との連携の充実と関係強化	・授業の実践は教職員の肯定的評価を 100% ・書く力・表現する力の項目の肯定的評価を 80%以上 ・小学校との連携充実は教職員の肯定的評価を 90%以上	教員アンケートの肯定的回答 実践：92.8% 書く・表現：70.4% 連携：78.5%	目標に達成することができなかったが、小中で統一した表示を実施することができた。	△

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習指導要領や足立スタンダードを基にした授業の実践	「生徒の主体的・対話的で深い学び」や「ねらい」「振り返り」の実践ができているか。	・小中連携の研究授業での実践 ・管理職や教科指導専門員の授業観察時おける実践	研究授業 中学校１回・小学校１回を実施 教員アンケート 肯定的回答 92.8%	それぞれで研究授業が実施できた。 「ねらい」の実践はできているが、「振り返り」はまだすべての授業で実施できているとは言い難いので、今後も指導をしていく。	△
書く力を含め表現する力を付けられる取組の実践	書く力、表現力を付けるための取組場面を多く設定できたか。 書く力・表現する力が付いたの肯定的評価 80%以上	年度当初に小中３校で連携し各教科、領域、行事等において、具体的な取組を決め、書く場面、表現する場面を多く設け、実践させる。	教員アンケート 書く・表現の肯定的回答：70.7%	研究授業では意識をして取り組んではいた。今後も小中の共通実践事項を設定して取り組んでいきたい。	△
教科以外の生活指導や家庭学習等についての話し合いや研修がもてるようにする	教職員の肯定的評価を90%以上	授業参観後に分科会内で教科だけでなく生活指導等の情報交換がもてるようにする。 「ICT 機器の活用」「家庭学習の定着」「サマースクール」等についての具体的な実践例の共有や研修の実施。	教員アンケート 連携・共有化の肯定的回答 78.5%	今後はさらなる連携を図り、さまざまなことで共通化を図り、小学校から中学校へのギャップが少しでも減らせることができるようにする。	△

重点的な取組事項－３	自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・教育活動全般を通して生徒の自尊感情を醸成する。 ・不登校生徒への適切な対応	・生徒の自尊感情に関するアンケートの肯定的評価を平均で85%以上にする。 ・不登校生徒を全体の9%に減少させる。	「自分には良いところや得意なことがある」 肯定的回答　７５．８％ 不登校　９．５％	自尊感情を醸成できるように取組んでいき、目標を達成したい。 不登校の割合はおおむね達成できた。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒の自己肯定感を高める	区調査や学校評価アンケートの自己肯定感に関する項目の肯定的回答の生徒の割合 80%以上。	・様々な教育活動を通して、自分はもちろん、相手も含めお互いに認め合い受け入れられるようにする。 ・年間２回自己評価アンケートを実施する。	「自分には良いところや得意なことがある」 肯定的回答　７５．８％ 「周りの人から褒められたり、感謝されたりしている」 肯定的回答　７７．３％ 「楽しく学校生活を送ることができている」 肯定的回答　８９．５％	おおむね目標を達成することができており、今後も継続した教育活動を行っていく。	△
別室登校の 効果的な取組	・ランチルーム登校によって、不登校生徒が登校できるようになったか。 ・教室復帰できたか。	・週５回、ランチルーム登校を実施する予定。 ・３か月を１クールとして、その時の状況を確認しながら、教室復帰を促す。	ランチルーム登校には１１名の生徒が登録し活用している。 月４・火７・水７・木６・金６ でも生徒の利用がある。	現状、教室復帰はなかなか厳しいが、登校できなった生徒がランチルーム登校にだけではあるが、登校できる生徒が増えた。来年度はSSR がメインとなってさらなる不登校生徒の減少に努める。	○
外部諸機関との 連携の強化	・校内の教育相談部会メンバー全員が肯定的評価することができたか。	こども支援センターげんきと連携して、あすテップやチャレンジ学級、カタリバやキッズポート等との連携の強化を図れたか。	週１回の教育相談部会を実施している。 （参加教職員：各学年担当、支援教室担当、養護教諭、管理職、ＳＣ、ＳＳＷ（登校支援係））	支援系と不登校系を隔週で報告しており、大いに評価されている。 今後も継続して取り組んでいく。	○

ボランティア活動の推進	・ボランティア活動参加生徒延べ200人以上 ・地域に貢献したい、積極的にボランティアに参加できたの肯定的割合80%以上	ボランティア活動の意義を様々なところで取り上げていけるようにする。校内外のボランティア活動に積極的に参加を推奨する。	地域ボランティア延べ参加人数 　１３８名 校内でのあいさつ運動を実施している。 ボランティアの肯定的回答 　６１．２％	周年行事前のみで清掃と花植えボランティアを実施した。 人数・肯定的回答共に目標を達成することができなかった。	△

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１　学力向上アクションプランについて

『課題』

〇令和６年度 区学力調査では３科平均の通過率が58.1%で、目標としていた通過率65%以上を大幅に下回り達成することができなかった。

〇特に２・３年生の英語の通過率は40%台で半数以下の生徒が目標値を達成できなかった。

〇基礎学力の定着が各教科共にできていないことが伺える。特に数学では計算力、国語では漢字、英語では単語力の学力が低い。

『対策』

〇各教科共に授業の中では小テスト等を実施し、繰り返しの取組を図り定着を図っていく。

〇家庭学習ノートの提出率を向上させるよう声掛けを行い、今年度以上の提出率を目指す。さらには内容を吟味し、場合によってはAIﾄﾞﾘﾙ等の記録をもって提出に変えるなどの工夫も検討させる。

〇放課後補習では区調査以降、数学に特化して取り組ませたが、次年度の区調査の実施までは同様の取組を行わせる。

重点的な取組事項－２　小中連携の推進と授業改善

〇小中連携の研修は、年間２回（中学校１回、小学校１回）の研究授業、研究協議を実施できた。小中９年間を見通した学びの継続性を前進させ、足立スタンダードを意識した授業だけでなく、授業規律や生活指導、家庭学習にもつなげていき、ギャップの軽減を図っていく。

〇「書く」ことを意識した授業の実践を各分科会で継続させていきたい。次年度の小中連携のテーマが変更となった場合にも教員には意識させていきたい。

重点的な取組事項－３　自尊感情の醸成と不登校生徒への適切な対応

〇自尊感情の醸成についての取組は学校行事だけでなく、それぞれの教員が学級活動や学年行事等を通して実践できるようになってきている。生徒会を中心とした様々な活動で各種委員会を活性化させ、生徒主体のあいさつ運動等、自発的・自治的な活動ができるようになってきた。次年度も継続して取り組んでいきたい。

〇不登校の未然防止のために、別室登校や外部機関との連携等を行って、目標値を大きく上回ることはなかった。次年度も同様の取組に加え、ＳＳＲ設置校として、目標値を下回るとうにしていきたい。

〇ボランティア活動には多くの生徒が参加したが、積極的に参加したという肯定的回答は目標値に届くことができなかった。今後は地域のイベント等にもボランティアとして参加できる環境を整えていきたい。

（２）保護者や地域へのメッセージ

保護者や地域の皆様には、日頃から本校へ様々なご尽力をいただき、心から感謝いたしております。今年度の学校行事は今まで通りに近い形で実施することができました。また今年度は創立50周年にあたり、保護者の皆様、地域の皆様のお力添えをいただき、周年事業を実施することができまし

た。本当にありがとうございました。
生徒の健全育成のためには、保護者・地域・学校の連携が何より大切だと考えています。「一人一人の生徒が輝き、笑顔あふれる学校」の実現を目指して、チーム西新井の体制で様々な教育活動に取り組んでまいりますので、今後とも、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

（３）その他（学校教育活動全般について）

・学習指導では、「わかりやすい授業」「やるべきことが明確な授業」の実践を目指し、おおむね落ち着いた雰囲気の中で授業が行われているが、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、日々授業改善に取り組むことが必要である。各学力調査や定期考査等の分析を行うことで生徒のつまずきを確認し、放課後補充教室、サマースクール、家庭学習の取組等で学力の向上を継続して図っていく。一人１台端末の活用を図り、紙媒体等での指導に加え、ＡＩドリル等の活用を図り、アナログとデジタルを融合させて基礎学力の定着を継続して図っていく。

・生活指導では、教員間での共通理解、同一歩調による、力に頼らない指導の徹底を図るとともに、生徒の良さを認め、ボランティア活動や挨拶運動を推進して生徒の活躍の場を設け、自己肯定感を高め、自尊感情の向上を図る取組を行っていく。現状でも学校行事や生徒会活動、部活動等で、生徒は意欲的に活動していた。今後は地域の行事等も生徒に周知し、地域の役に立てる生徒を増やして、生徒の自己有用感も向上させていきたい。また、不登校生徒を減らすことも課題である。